

そして15時から、こちらも恒例になった、手話ロック歌手、シャンテのコンサート、招待した児童福祉施設愛育社の子どもたちも、また患者さんや職員など大人も一緒に歌って楽しみました。夕刻からの盆踊りには多くの患者さんやスタッフ、そのご家族が集まり、賑やかなお囃子に、みんなとてもいい笑顔、やぐらの周りでは、みんな楽しんで踊っていました。子ども連れでお越しになる近隣の方もいて、さながら町内の盆踊りといった印象でした。事故もなく、最後の花火の歓声とともに今年の夏祭りも盛況のうちに終わることができました。



## はんなり夏祭り!!

いつもながらの暑い夏、お盆を過ぎると準備も佳境、各部署それぞれの取組が進みます。安全で心に残るイベントには、十分な準備は欠かせません。レク会議を中心とした多くの方々の尽力で万全の8月19日。涼しい朝ではありませんでしたが曇天が気になる幕開け、とはいえ、病院はお祭り一色。9時を過ぎたあたりから、早くも模擬店から香ばしいにおいが…。患者さんも集まって夏祭りの楽しい一日が始まりました。そして予想通りのゲリラ豪雨(!!)しばしの大雨に盆踊りの開催が危ぶまれましたが、雨音が止むと、そこからぐんぐん気温も上がり、熱気で太陽が顔を出す好天に恵まれました。

### 基本方針

**人** 権を重んじ、患者さんやご家族の「心のふるさと」になれるよう、患者さんの立場に立ったやさしい医療をおこないます。

**最** 新の医療知識と技術を身につけ、予防から急性期治療・リハビリテーション・在宅支援まで継続的な質の高い医療を提供します。

**光** 「と風と緑」にあふれた、安全で快適な療養環境を提供します。

**地** 地域の拠点病院として、行政機関や病医院・地域の方々と連携し、保健・医療・福祉に貢献します。

**信** 頼られる医療サービスを提供するために、経営の健全化につとめ、すぐれた医療従事者を育てます。

院内

## 花だより

院内の花が咲き競っています。  
美しい花の季節をお楽しみください。

### すいふよう 酔芙蓉



【分類】アオイ科フヨウ属の落葉低木。  
【分布】原産地は中国、日本。  
【花の特徴】樹形、葉形はフヨウとほぼ同様だが一重咲きが基本のフヨウに対し、花は八重咲き。時間が経つにつれて変色していくのが大きな特徴である。  
【花期】9～10月  
朝に咲き、夕方には萎んでしまう一日花で、酔芙蓉は、朝のうちは純白、午後には淡い紅色、夕方から夜にかけては紅色になります。写真は朝撮ったものですが、朝開いた白の花と夕方しぼんだ赤い花が同じ幹から伸びているのが不思議な感じ。酒を飲むと顔色がだんだんと赤みを帯びるのに似ていることからこの名がついたといわれています。

### 外来診察表

外来診察時間 / 9:00 ~ 12:00(受付は11:30まで)

	月	火	水	木	金	土	
診 察	1 診	黒田	柏木	中井	横田	黒田	横田
	2 診	松島	野村	松島	野村	横井	横井
	3 診	西側	澤田	植田	澤田	西側	植田
	4 診	福田	子安	正路	橋元	西岡	
	5 診	佐野	影山	川村	宮里	秋田	
	6 診	呉家	和田貴	吉田綾	吉田綾	土井	呉家
	7 診	村上智	村上智	小深田	和田大	作田	小深田
	8 診	西村	山田	西村	河野い	相馬	和田大
心 1	熊取谷	河野隆	作田	三秋	岩田	熊取谷	
心 2	宋	植月	荒川	清水喜	宋	植月	

ご紹介いただく際は予めご連絡をお願いいたします

専門外来(睡眠・小児・往診・女性・口腔)は予約制です  
医療機関からの入院・転院のご相談は地域医療連携室で承ります。  
受診の前に下記へお電話ください。

電話 072-278-0381 FAX 072-281-6615



### 診療科目

精神科 / 心療内科 / 児童精神科 / 内科 / 小児科 / 歯科

### 病床数

EPU 精神科救急 病棟 168床 (C1,H2,H3病棟)  
児童精神科病棟 25床 (D1病棟)  
亜急性期病棟 120床 (B2,C2病棟)  
メンタルケア病棟 55床 (E2病棟)  
メンタルケア病棟 35床 (E3病棟)  
リハビリmix病棟 57床 (D2病棟)  
老年期精神疾患病棟 60床 (D3病棟)  
MPU 精神科合併症治療 病棟 50床 (H1病棟)  
リハビリ 精神療養 病棟 60床 (F2病棟)  
認知症治療病棟 60床 (F3病棟) 計690床

### 看護体制

精神科病棟 15:1 急性期病棟 13:1 スーパー救急 10:1  
看護師比率70%以上・看護補助 30:1

### 関連施設ご紹介

認知症疾患医療センター  
訪問看護ステーションふれあい  
居宅介護支援事業所  
ヘルパーステーションはんず  
ケアホーム / こもれび・青空・そよかぜ  
堺市中区八田南之町277 阪南病院内 電話072-278-0381  
ケアホームあんずの郷  
堺市中区八田北町309 電話072-278-2233  
地域生活支援センターゆい  
堺市中区深井東町3134 電話072-277-9555



当院は敷地内完全禁煙です





## クロザリル錠の 使用について

当院でも治療抵抗性統合失調症の治療薬であるクロザリル錠(一般名クロザピン)の使用が始まります。

治療抵抗性とは、これまでの治療で効果不十分な患者さんを対象とするもので、1960年の開発後、1970年代には各国で販売され、統合失調症の幻覚・妄想や、また引きこもりや自発性低下などにも効果を示し、振るえなどない画期的な薬剤と言われていましたが、日本での承認を前に、「無顆粒球症」という白血球の顆粒球が減少、消失する重篤な副作用が起こりうる事が報告され、世界的に発売中止となりました。しかし、クロザピン開発をきっかけに、現在多く用いられている非定型抗精神病薬の開発に繋がりました。そしてクロザピンも1980年代にはその効果が再評価され、副作用に対するリスクを避けるための慎重な血液検査を繰り返しつつ使用されるようになりました。そのため、使用においては全件登録制となり、登録された医療機関にのみクロザピンが納入されます。

### 使用の条件

(発売元ノバルティスファーマ株式会社HP参照)

登録医療機関であり、血液専門医などとの連携ができており、副作用への診断、治療可能な環境である。

講習修了証を取得した精神保健指定などの医師が処方する。

既往歴など患者の適応性を確認の上での処方が可能。また、処方に当たっては患者本人または代諾者に文書によって説明し、文書による同意が必要。

原則として副作用出現率の高い期間、18週間は入院管理下で投与を行い、定期的な血液検査を実施する。

上記条件を厳守し、安全を第一にした上で、治療の選択肢の一つとして、利用する予定です。利用に際しては主治医にご相談ください。

## ライトダウンキャンペーン2011

節電への取り組みを職員一同積極的に行っています。院内の照明を少し間引きしたり、使わないところは消灯しています。どうぞご理解の程、お願いいたします。



阪南病院

わたしたちは地球温暖化防止のため、  
節電ライトダウン 2011 に参加します。

皆様もライトダウン！ 貴客さんのスペースは嬉しいですが、職員のスペースや車庫、サービス通路などを節電したいと思っております。もちろん、有休が確保されていますが、特に9月は全年度最長でライトダウンを心がけてください。照明に直結する場合は、これで消費電力15%減を目標とします。実行はあくまで自己責任です。9月も実施します！

9月  
2日(金) 8日(木) 14日(水) 20日(火) 26日(月)

この日は、勤務時間などで決まっている以外の照明はやめて、要領にご協力ください！

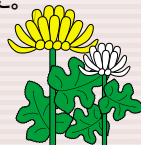
まだまだ暑い毎日ですが、秋風を楽しみに、もうひとがんばり♥  
みんなでしっかり取り組みたいと思います！

地球に優しい地球みまも。を大切に。

節電サマナー い 阪南病院

## 無縁仏慰霊祭

供養する親族や縁者もない方の霊を弔う慰霊祭として、毎年お盆の時期に法要会を行っています。今年は8月10日(水)11時からA棟1階の霊安室にて、南林寺のご住職に読経いただき執り行いました。11時にはお導師様が祭壇に進み、集まった全員で合掌。その後、ご読経いただく間、順番に焼香し、亡くなられた方のご冥福をお祈りいたしました。



## 大阪精神科病院協会 栄養士等研修会

7月23日(土)、大精協栄養士部会より、35名の栄養士さんが来院され、研修会が行われました。定期的に大精協に所属する病院栄養士さんが、会場持ち回りで勉強会を行っておられます。今回担当の当院では、新棟を中心とした院内見学と、井上副院長による「誤嚥性肺炎」についての講義という内容で開催されました。

35名という大人数にも係らず、定刻14時までに全員が揃い、食療課副主任問谷の進行にてスタート。事務長の病院概要や、続く食療課の概要説明とスムーズに会は進みました。今回、食堂及び厨房への見学は、衛生上の問題もあり、見学コースからは外れています。そのかわり写真で厨房の様子やトレイメイクを紹介、食療課の人員構成や業務についての説明では、皆さん特に興味深い様子で熱心に聞いておられました。

概要説明の後は4グループに分かれての院内見学です。各グループ看護部より2名と栄養士1~2名のアテンドで、院内を回られました。新棟の広さやアート、中庭などに目を留め関心を寄せておられたようです。

16時からは井上副院長による「誤嚥性肺炎」についての講義が行われました。食べたものが胃に入るまでの



経路や、食道から胃ではなく、気管から肺に入ってしまう誤嚥、誤嚥にあわせて細菌などが吸入され起こる誤嚥性肺炎のしくみなど、詳しくわかりやすい説明に、とても勉強になったとの声も多数聞かれました。

35名という大人数ではありましたが、トラブルもなく、何より大変喜んでいただき、盛会のうちに終わることができました。開催に際し、ご尽力いただきました皆様に心より、お礼申し上げます。ありがとうございました。後日、大精協栄養士部会からも大変貴重な研修会だったとお礼の言葉をいただいています。

## アピス薬局オープン

7月1日、病院前信号の向かいにアピス薬局さんがオープンしています。

当院は院外処方のため、患者さんには、病院付近の薬局か、ご自宅近くの薬局を選び、ご利用いただいております。病院近くにひとつ薬局が増えておりますのでご連絡いたします。



## アウトリーチ活動

アウトリーチは、福祉の分野では医療・福祉関係者が直接的に向いて心理的なケアとともに必要とされる支援に取り組むこととされていますが、障害者が対象である限り、それを取り巻く、社会(地域や病医院、社会資源)全般への様々な働きかけが必要です。当院では、地域医療連携室を中心に、病医院との連携や地域での渉外活動をとし、安心してご利用いただけるよう取り組んでいます。

今回は、児童精神科病棟が今春より稼働していることもあり、夏前から堺市の小中学校や、府内の児童相談所へ、病棟の周知を主としてご挨拶に伺いました。8月からは近畿全域を対象に、三重、滋賀、兵庫、奈良、和歌山のこども家庭相談所にもご挨拶を兼ねお伺いしています。小中学校では、こどもの問題とあわせ、親御さんとの関係が難しいこともあり、対処に戸惑うこともあるなど、興味深いお話を聞くことができました。こども家庭センターでは、なかなか診てもらえる機関が少ないことと、あってもかなりの予約待ちがあり、十分な対応ができないなど、現場では深刻な問題を抱えておられることを実感しました。病院として少しでも地域、社会のお役に立てることを第一にさらに取り組んでいきたいと考えます。